

5月どり春ネギの作期拡大に向けた播種・移植日

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

一本ネギの端境期となる5月中旬～下旬は不抽苔系の坊主不知ネギが用いられているが、品質が優れる一本ネギの出荷が望まれており、抽苔を抑制する栽培法の確立が求められている。一本ネギの5月中下旬までの出荷期拡大を目指し、播種・移植日が抽苔発生、収量に及ぼす影響について検討したので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 春どり一本ネギにおいて、7月26日以降の播種×9月29日以降の移植を行うと、5月中下旬にかけての抽苔発生が減少することから、一本ネギでの5月中下旬収穫の可能性が認められた。
- 2) 育苗形態(200穴セルトレイ、448穴セルトレイ)の違いによる抽苔への影響は認められなかった。

2 試験成果の概要

2011年、2012年の2か年において、異なる育苗形態における5月どり春ネギの播種・移植日が抽苔の発生および収量に及ぼす影響を調査した(表1)。

表1 試験区の概要

育苗方法 (播種数、ポット間隔、栽植密度)	播種日-移植日	試験年
200穴セルトレイ (4粒、10.0cm、4,000本/a)	7/15-9/15	2011年
	7/20-9/22	
448穴セルトレイ (3粒、7.9cm、約3,800本/a)	8/1-10/4	2012年
	7/20-9/22	
	7/26-9/29	

注) 供試品種‘龍まさり’(横浜植木)、条間1mにて実施した

(1) 生育

2011年試験において、移植日が早いほど葉鞘長および葉鞘径が有意に優れ、2012年試験においても葉鞘径は同様であり、移植日が早いほど生育が旺盛であった。育苗形態の違いによる有意な生育差は、何れの試験においても認められなかった(表2)。

(2) 収量

2011年試験において、200穴セルトレイ育苗は448穴セルトレイ育苗より上物重量が有意に重く、移植日の違いに有意な差は認められなかったが、何れの育苗形態においても9月15日移植の上物重量が最も優れた。

2012年試験においては、育苗形態の違いに有意な差は認められなかったが、移植日には有意性が認められ、何れの育苗形態においても9月29日移植の上物重量が9月22日移植より有意に重かった(表3)。

(3) 抽苔

2011年試験において、何れの区も5月15日まで抽苔率10%未満と低率であったが、9月22日移植および10月4日移植区は5月25日においても3%未満であった。

2012年試験においては、9月22日移植区の抽苔率が5月11日時点で20%を超えたのに対し、9月29日移植区は何れの育苗形態とも5%以下と低率であったが、5月17日には何れも20%前後となった。

尚、両年とも、育苗形態の違いによる抽苔率への影響は小さく、ほぼ同等に推移した。

表2 育苗方法および播種・移植日が生育に及ぼす影響

育苗方法	2011年4月20日			2012年5月10日			
	移植日	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (mm)	移植日	草丈 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (mm)
200穴	9月15日	41.2	18.3				
	9月22日	35.9	18.6	9月22日	98.4	47.2	20.1
	10月4日	34.7	16.4	9月29日	96.5	46.5	19.2
448穴	9月15日	41.4	21.1				
	9月22日	33.7	18.9	9月22日	98.1	47.7	20.2
	10月4日	33.1	16.2	9月29日	97.1	45.6	20.6
分散分析 ¹⁾	育苗：A	ns	ns		ns	ns	ns
	移植日：B	**	**		ns	*	ns
	A×B	ns	ns		ns	ns	ns

注1) 分散分析により、**は1%水準、*は5%水準で有意差があり、nsは有意差がないことを表す

表3 育苗方法および播種・移植日が上物¹⁾収量および抽苔に及ぼす影響

育苗方法	2011年試験							2012年試験						
	移植日	重量 ²⁾ (kg/a)	抽苔率 ³⁾ の推移 (%)					移植日	重量 ²⁾ (kg/a)	抽苔率 ³⁾ の推移 (%)				
			5/10	5/15	5/20	5/25	5/30			5/7	5/11	5/17	5/21	5/26
200穴	9月15日	499.3	2.9	8.1	11.6	19.0	31.6							
	9月22日	478.4	1.3	1.3	1.3	2.6	6.6	9月22日	446.8	10.7	29.7	63.8	-	86.2
	10月4日	417.7	0.6	1.2	1.2	1.8	14.7	9月29日	557.4	1.7	4.0	25.4	42.8	50.3
448穴	9月15日	407.3	2.2	6.7	11.2	12.7	17.2							
	9月22日	364.4	0.7	0.7	0.7	0.7	17.0	9月22日	465.5	4.4	21.0	72.2	-	84.6
	10月4日	385.5	0.7	0.7	0.7	1.4	18.9	9月29日	562.9	0.9	1.9	17.9	32.1	32.7
分散分析 ⁴⁾	育苗：A	*							ns					
	移植日：B	ns							*					
	A×B	ns							ns					

注1) 上物は、M規格(2L:230g以上、L:100~150g、L4:75~100g、M:40~75g)以上を示す

注2) 2011年試験については5月17日、2012年試験については5月11日収穫時における重量

注3) 抽苔株数/栽植本数×100

注4) 分散分析により、*は5%水準で有意差があり、nsは有意差がないことを表す

3 利用上の留意点

- (1) 本試験は、弓浜砂丘地域(砂質土壌)における5月中下旬どりに向けた試験結果であり、他の地域(土壌)については別途検討が必要である。
- (2) 本試験は、極晩抽性品種‘龍まさり’を供試した試験結果であるが、気象条件等により抽苔発生の推移が異なる可能性がある。
- (3) 高温期の播種となるため、育苗管理に注意が必要である。

4 試験担当者

(弓浜砂丘地分場 研究員 伊垢離孝明*・田村佳利)
 (分場長 中村博行)
 *現 西部総合事務所農林局西部農業改良普及所